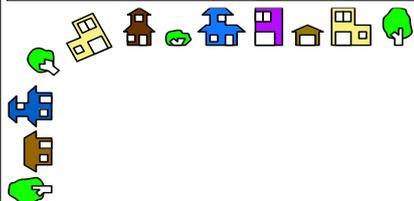


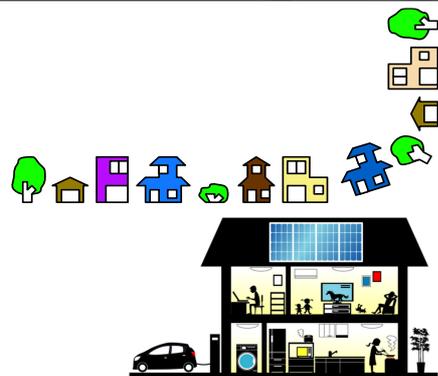
みどり山防災ニュース

発行：三輪緑山自治会自主防災隊編集委員会

三輪緑山3-1-13 ☎044-987-7495



新年度を迎えて



<防災活動>

平成30年度の自主防災活動は「じゅんばん・まちかど防災訓練」と「三輪緑山防災訓練」を主とします。「備え」の充実を図ることと「発災時の行動」への理解を深めることを主眼にします。積極的にご参加下さい。



<組織>

発災時、隊長や班長が不在のことを考慮し、代行する副隊長や副班長（新規）の位置付けを明確にしました。また、ここ数年間の実際の活動から、正隊員と協力隊員の区分が不要であることが分かりましたので、同区分を廃止し「隊員」一本にします。

隊長		
副隊長		
事務局長		
情報・広報班長	副班長	班員
消火班長	副班長	班員
救出・救護班長	副班長	班員
避難・誘導班長	副班長	班員
給食・給水班長	副班長	班員



<人事>

新年度から次の方々が担当します。

- 自主防災隊長 : 渡辺辰美
- 事務局長 : 市川秀秋
- 情報・広報班長 : 仲澤孝次 (副隊長兼務)
- 消火班長 : 竹内良介
- 救出・救護班長 : 山形高治
- 避難・誘導班長 : 武久勝弘 (副隊長兼務)
- 給食・給水班長 : 西村国俊

ご協力、宜しくお願い致します。



じゅんばん・まちかど防災訓練で 日頃の備えを確認しましょう



じゅんばん・まちかど 防災訓練を体験して

3月24日（土）のスタンドパイプ体験訓練と防災懇談会に3丁目から12名が参加されて、体験談とご感想を頂きました。

スタンドパイプ体験訓練

- ・訓練を難しくとらえていましたが、消防署員の説明がわかりやすく、実際に消火栓を開ける作業から放水まで体験して、訓練は楽しかったです。
- ・女性でも簡単に操作できることがわかりました。
- ・被災時には自主防災隊員のお手伝いができそうです。
- ・一丁目から三丁目の防災倉庫にスタンドパイプが3台あることに安心感を待ちました。
- ・近所での防災協力を考えてみたいと思いました。

スタンドパイプ設置



防災講談

- ・防災講座から三輪緑山地域の安全度合いが確認できましたが自然災害は想定外が多いので我が家の防災備蓄を見直します。
- ・講義にありました感震ブレーカーをぜひ設置してみたいです。
- ・転倒防止の家具固定方法の具体例が参考になりました。

消防署員の説明



消火栓開蓋



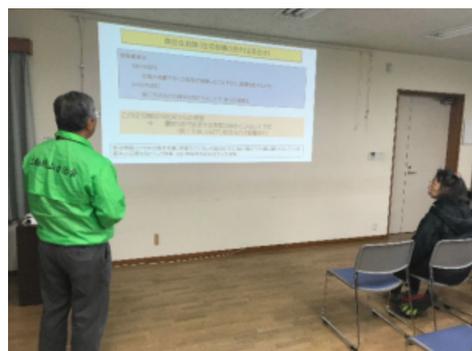
放水開始



スタンドパイプ撤収



講義風景



防災豆知識

トイレが使えないとき 「東京くらし防災」より

トイレが使えないときの 簡易トイレの作り方



トイレが使えないときに必要な物は？

地震で自宅の排水管や道路の下水道管が損傷すると、汚水が逆流したり、損傷したところから噴出することもあり、特に集合住宅では、下の階の住戸で汚水が逆流する場合があります。災害時には排水管の損傷がないことを確認できるまでトイレを使わないようにしましょう。

そのため、備えが重要になるのが、非常用トイレ。市販の物を用意する以外に、次のような方法でも非常用のトイレが作れます。

（トイレが使えないのために準備しておく物）

45ℓのゴミ袋
黒い袋なら汚物が見えないのでストレスを減らせます。【1日の目安：数枚】

便を吸収・凝固するための物
市販の処理剤のほか、新聞紙、紙おむつなどでも代用できます。【1日の目安：1人5～7回分】
※トイレには流せません。

便器が壊れているときなどは
厚手の段ボール箱、大きめのバケツなどで代用できます。

近隣の防災イベント紹介

町田市・山崎団地「防災まつり」

3月10日と11日に町田市の山崎団地で今年で4回目となる「防災まつり」が開催されました。

応急救護や起震車等を体験する防災訓練や新しい提案の防災を学べるワークショップ、被災時には住まいとして活用できるテントでの宿泊体験やキャンプファイヤー、東日本大震災の様子を収めた写真展など団地を上げて子供から年配の方まで幅広い世代で学び楽しめるイベントでした。

テントでの宿泊体験はコーナーは熊本地震でも活用されたキャンプ用テントでの避難生活を模したコーナーで、参加者からも「被災時の利用を想定できる」とのお話を伺いました。

三輪緑山のみなさんもお家の倉庫に仕舞われてあるキャンプテントがありましたら被災時の避難用として利用できるか広げてみるのも一考かと思います。

山崎団地の防災まつりが来年も開かれましてらぜひ見学をお勧めいたします。

イベント会場の様子



テントでの宿泊体験コーナー



なまず絵シリーズ③

江戸鯰と信州鯰

信州善光寺地震(1847)と安政江戸地震(1855)を起こした2匹の大鯰が人々にこらしめられ、儲けた職人達がそれをいさめる様子を描いた鯰絵。



「鯰絵」は安政2年10月2日に江戸を襲った大地震直後に刊行されたかわら版で、当時地震を起こすと考えられていた鯰をモチーフに描いた戯画と世相を風刺する詞書などから構成される無届出版のものである。

「鯰絵」は地震から身を守る護符として、あるいは不安を取り除くためのまじないとして庶民の間に急速に広まった。

編集後記

防災ニュースも今号で12号となり初刊から三年が経過いたしました。

筆者は、防災隊の発足から現在までの活動を側で見続けて参りました。隊員の皆様の献身的な地域防災への取り組みには頭が下がる思いです。

新年度の新規入隊者を加えても隊員総数は80有余名。

規模にもよりますが発災時の被災対応には多数の人手が必要となります。地域の皆様には日頃から自主防災隊をご理解頂き、被災時には積極的なご支援ご協力をお願いいたします。

自主防災隊では常に新規入隊をお待ちしております。自主防災隊で防災知識を学びながら一緒に地域貢献を行って参りましょう。